

あしよろ・ハードサポート通信

5月になり、今年も放牧シーズンが開幕しました。「新物」の放牧草は牛にとってこの時期しか味わえない特別なものでしょう。この放牧草をたくさん喰い込んだ牛では糞が軟くなる傾向にあります。さて、今回は軟便についての話題です。

◆ 糞性状の観察

現場を巡回して牛を観察するときに、筆者は必ず牛群の糞性状を確認します。観察ポイントとしては、糞が硬いか軟いか、色はどうか、臭いはどうか、未消化物はあるか、などです。糞性状は牛が食べた飼料のルーメンなど各消化管での消化の状況を示しており、右の写真のように適度に締まった糞が牛群で多く見られる場合は消化の状況や牛の健康状態は良好と考えられます。ひと昔前までは高泌乳牛の糞は軟いものと考えられていましたが、バランス良く飼料給与を行うことで糞性状は改善することができます。ちなみに、右の写真は個体平均乳量が37kg前後の牛群のものです。



適度に締まった糞

◆ 消化管通過スピードとアンモニアの影響

給与している粗飼料の有効セニ含量が低い場合、軟便が起こりやすくなります。これは「ガサ」が無く、多くの量を喰い込める放牧草や早刈りのグラスサイレージを給与したときなど、各消化管での通過スピードが速くなっている際に見られます。反対に、しっかりとした有効セニ含量のある牧草ロールなどを給与して



放牧最盛期は糞が軟くなりやすい

いるときは各消化管での通過スピードが遅くなり、糞は締まりやすくなります。また、ルーメン内でのアンモニア過剰も軟便の原因となります。不良発酵したグラスサイレージなどの粗飼料の給与のほか、大豆粕ミールなどルーメン分解性タンパクの多い濃厚飼料を多給している場合、腸管など下部消化管へのアンモニア流出量が多くなり、黒っぽい色の軟便となります。ルーメン内でアンモニアが過剰になっているときは、MUN（乳中尿素態窒素）が高くなりますので、乳成分と併せてモニタリングしましょう。

◆ 穀類多給の影響

圧ペンとうもろこしなどの穀類を給与しているとき、ルーメン内で十分な発酵がされずに穀類が大腸まで流出することがあります。穀類多給の場合は大腸へ流れ着く穀類がより多くなり、大腸に生息する微生物によって過剰な発酵を受け、酸が生成されて結果として軟便が引き起こされます。右の写真のように糞中に脱落した腸粘膜が見られたときや、酸っぱい臭いのする軟便を確認したときは要注意です。このケースの軟便を防ぐためには穀類と粗飼料の給与バランスに問題がないか、前述の消化管通過スピードは速すぎないかをチェックすることが大切です。



糞中に見られる腸粘膜

◆ カビなどの刺激物の影響

人間でもそうですが、カビが生えているものや腐敗しているものを給与した場合も軟便になります。特にカビの場合はカビ毒による免疫力低下や繁殖成績低下など軟便以外の悪影響も多く考えられますので、注意が必要です。もし給与している飼料にカビが見られたときは、可能な限りカビは取り除き、カビ毒吸着剤の給与も検討しましょう。



コーンサイレージのカビ

◆ 軟便は牛からのメッセージ

分娩から1カ月以内の乳牛では乾物摂取量が急激に増加していくため、軟便が起こりやすくなります。また、初産牛は経産牛に比べて体重当たりの乾物摂取量が高いため、消化管通過スピードが速くなり糞は軟くなることが考えられています。このように泌乳ステージによっても軟便が起こることも考慮しつつ、何が軟便の原因であるか、それが牛の健康を害するものかどうかを見極めることが大切です。糞性状は牛からのメッセージであり、軟便が発生しているときはどこかに問題があることを示しています。牛からのメッセージを見逃さないように、まず牛群の糞性状をよく観察することをおすすめします。(市川雷太)



この軟便の原因は何だろうか？